

第 33 回精華町環境推進委員会 会議録

会議名		第 33 回精華町環境推進委員会		
開催日時		令和 6 年(2024 年) 3 月 27 日(月)10:00～		
開催場所		精華町役場 図書館集会室		
出席者	委員	上甫木委員長、寺本副委員長(精華町商工会)、岩本泰一委員(けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会)、信田委員(精華町環境ネットワーク会議)、井澤委員(精華町女性の会)、畑中委員(けいはんな環境・エネルギー研究会)、渡辺委員(公募) (敬称略・順不同)		
	事務局	健康福祉環境部：岩前部長		
		健康福祉環境部環境推進課：山崎課長、八木係長、佐藤係員(敬称略) (株)地域計画建築研究所(アルパック)：中川、長澤(敬称略)		
傍聴の可否	可	傍聴者数	0 人	
傍聴不可・一部不可の場合、その理由				
会議次第	<p>1. 開会あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p>①地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(案)について 資料 1</p> <p>○パブリックコメント結果について</p> <p>○計画全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体について ・適応策について <p>○進捗管理指標について</p> <p>○今後の流れについて</p> <p>3. その他</p> <p>資料 1-1：地球温暖化対策実行計画(区域施策編)概要版(案)</p> <p>資料 1-2：気候変動の影響に対する適応策の取組</p> <p>資料 1-3：再生可能エネルギーの導入目標と指標について</p> <p>資料 2：プラットフォーム勉強会実施結果</p> <p>資料 3：令和 6(2024)年度精華町環境推進委員会スケジュール(案)</p> <p>参考資料：第 32 回精華町環境推進委員会会議要旨</p>			

1. 開会あいさつ

事務局

定刻となりましたので始めさせていただきます。

(定数確認)

岩前部長

アンケート等を見ても、実際にごみ焼却現場を見ていただいて、非常に勉強になったというご意見が、親子の参加者から多く寄せられた。

この3月の議会に上程をしており、今月の29日に最終議会があるが、そこで可決いただけると思っているが、以前から精華町内で盛土で数年前から住民から危惧をいただいております、規制できないのか、というご意見をいただいていたので、盛土や埋め立ての規制ということで、京都府の規制では面積が3,000㎡以上しか該当しないが、その未満の部分を精華町として規制をかけるということで、盛土規制法を上程し、この3月末に議会にて可決いただけるであろうと思う。可決いただいた後3か月間は住民や事業者のみなさんに周知をさせていただいて、現在は7月1日から条例の施行をしていく予定である。そうすると、実際に盛土をして要件に合致した場合は、住民説明の開催や周辺への周知、土壌検査など色々な部分で規制がかかる。町内で不適切な土砂などの搬入が起らないように取り締まりを強化していきたい。また、広報等でお知らせするので、近隣のみなさん方に周知していただけるとありがたい。

また、今年度、みなさんにご議論いただいている地球温暖化防止対策実行計画も、そろそろまとめということになってきている。本日もこの後、適応策等についてご議論いただくが、概ねできているという状況であるので、この計画を今年度末には策定させていただき、次年度からはこの計画に基づく地球温暖化防止の対策の色々な施策を進めていきたいと思っている。

その中で思っているのが、6月の環境月間に合わせて、環境省が進めているゼロカーボンシティ宣言やデコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）の宣言などを打ち出した中で、より住民のみなさんに協力・参加していただいて、主体的に取り組んでいただける温暖化防止対策の具体的な取組を進めていきたい。今後、実際に宣言をするにあたっては、この委員会でもご報告をさせていただきたい。また、ご協力をよろしくお願ひしたい。

本日は、進捗管理の指標や計画全般にあたってのご意見等をお伺いしていきたいと思っている。短い時間ではあるが、実りある会議となるように、よろしくお願ひしたい。

2. 議事

①地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）について

上甫木委員長 只今、事務局から説明いただいた内容について、ご意見、ご質問をお願いしたい。

確認だが、資料 1-3 で、参考資料として 2 枚入っており、進行管理指標は本編に入れないということか、それを管理する際には使うという理解でよいか、補足説明いただきたい。

事務局 計画の中では具体的な行動計画を掲載するに留め、具体的な数字の目標は別で管理をしたい。この委員会でも報告をしたいと考えている。

先ほどの説明にもあったように、総合計画で掲載している目標値になっている。再生可能エネルギーについては、詳細な目標が設定されていないので、太陽光の設置割合など、こちらでも把握できるだろうと思われる目標値を追加させていただいた。導入容量については、2030 年にはマイナス 46%と大きな目標があるので、そこからの逆算で算出している。困難な目標値の設定にはなっているが、それに向かった数値という位置づけである。

上甫木委員長 ありがとうございます。

信田委員 さきほど、ご説明の延長かと思うが、資料 2-1 については本編で伝えないということか。

事務局 本編と概要版は、HP 等で公開していく予定である。

以前、住民の方に分かりやすいように、というお声もあったので、具体的な行動を分かりやすい形で作成しようと思っている。

文字ベースの概要版については、HP 等でも掲載予定である。

上甫木委員長 概要版には、適応策は書かないのか。

事務局 その点については、両方いれていかなければならないと考えている。もう少し整理させていただき、その点についても記載させていただきたい。

上甫木委員長 両方を一枚でというのは難しいのではないか。

畑中委員 資料 1-3 について、2 点ある。

その地域で使うか使わないかは限らず、設置された再生可能エネルギーの容量と、実際に地域で使われるエネルギーについて記載する例がある。

既存導入量は、誰が使うにも関わらず、設置された量かと思う。新規については、両方が混ざっているかと思う。

データセンターが調達するエネルギーについては、外から調達する量であり、この表は 2 つの数値が混ざっており、論理的に破綻している

ように感じる。

2030年の再生可能エネルギーで、バイオマスと小水力発電と記載があるが、本編では賦存量はゼロになっており、資料として信頼を失うような内容になっているかと思う。

事務局 どちらにしても、把握できる量になる。把握できる範囲で設定をしていければと思う。

バイオマスと小水力発電についてはご指摘の通りである。この点については、削除したい。

畑中委員 既存のFITについては、期限切れが来たら、自家消費ベースになる。また、期限切れがいつ来るのかについては把握できるかと思う。

今回、気になるのは、両方混ざっているが気になる。

上甫木委員長 どちらかにするか、分けて記載するか、検討するという事かと思う。

事務局 卒FITが自家消費になるという予測はあるが、現状、卒FITの動向も分からない。よってここでは、厳密に設定していない状況となっている。これまでは、設置量だけでなく、使う量は考えていなかったが、データセンターが立地する特徴を鑑み、町で使われる電力は増える中で、再エネ導入比率につながらない可能性もある。その点から、多量に電力消費量を使用する事業者に対して、再エネ調達率を設定させていただいた。

畑中委員 普及啓発的な意味であれば、この資料に記載するのは説明として筋が通っていないかと思う。

水素の話も安易に書くべき話ではないかと思う。

事務局 お時間いただき、来年度以降の進捗管理になるので、来年度の1回目までに整理させていただき、確認をしていただければと思う。

信田委員 論理破綻という話になってくるのかもしれないが、データセンターがこれからも増えるという想定で、どういう風な形で、46%削減に結びつけるかという問題があるから、こういう資料になるのかと思う。

今、把握されている中で、データセンターはどれくらい増えるのか。

事務局 建設中を含めて、4箇所の予定である。

信田委員 断るわけにはいかないのかもしれないが、町の環境政策として大きな問題になると思う。

色々目標値は決めるが、どうやって実行していくのか、その点は大事なところである。今回は、討議はしないのか。どんな風に進める予定か。

事務局 再生可能エネルギーは、事業規模にもよるが、事業者自ら脱炭素の取

り組みはされていくと思う。

信田委員

その問題だけでなく、この目標の実行計画は、今後環境プラットフォームとか、推進員会でも取り上げられるテーマになるのか。

事務局

指標の確認については、この委員会の中でもご報告を申し上げる予定である。

環境プラットフォームの中でも話題提供は必要になってくると思う。プラットフォームの地盤がまだしっかりしていないところもあるので、支援促進していきたい。

信田委員

計画に細かいところを書く必要ないのかもしれないが、資料1-3のP3で、総合計画の管理目標が決まっているが、学校給食の食材について、町内農産物の割合とあるが、農業全体の問題である。農業収入が低くて、従事者が少なくなる中で、どうするのかという大きな問題となる。くるりんバスの乗降客数を増やすとあるが、これも、増便や増コースをしないと実現しない問題かと思う。

総合的に検討する場が必要なのではないかと思う。それについてはいかがか。

上甫木委員長

いずれにせよ、総合計画は横断的に見ているので、他との共創が必要であり、進行管理指標については、本来は重要であるものである。

計画などに、明確に記載されていないような気がする。

畑中委員

精華町の特定排出事業者の割合はどれくらいか。

地域で対応すべき点は、特定排出事業者以外の中小企業や家庭部門などである。

データセンターに振り回されている気がする。データセンターがやらなければならないことを町の進行管理指標にわざわざ入れる必要があるのか。

上甫木委員長

進行管理指標について、参考資料として出しているが、他の自治体では、進行管理指標は出しているものか。

畑中委員

自治体それぞれである。

上甫木委員長

目標指標を町でも持つておくべきと考えておられるということか。

事務局

そうである。

他の自治体も見ている、入れているところもあれば、入っていないところもある状態である。

上甫木委員長

進行管理で、本編と進行管理指標をどう扱うのか。

詰め切れていないので、5年くらいの目標で計画に盛り込むようなお考えであれば、段階的に数値化するというのもひとつの選択肢かと思うが、いかがか。

- 事務局 数値目標は、2030年に向けての、どれだけがんばらないといけないのかという数字になる。委員に共有し、アイデアや意見をいただきながら、進める施策・事業に反映していきたい。
- 畑中委員 削減目標は、計画に記載されている。
省エネによるものと再エネによるものがこの削減目標である。その内訳が記載されておらず、再エネの指標だけが示されている状態である、論理がない状態で分かりづらくなっている。
- 事務局 算出の過程では、計算はしているが、表に出していない状態である。2030年の現状趨勢ケースで、どれくらい見込むのかということで、仮定の設定を入れており、積み上げでの算出が難しくなっている。
- 畑中委員 委員の方が理解出来ない内容は町民の方が理解も難しいだろう。論理はシンプルにした方がよい。
- 信田委員 データセンターは特出しして、精華町にそういう問題もあるということ、を明らかにした方がよいかもしれない。我々が引き受けられないということかと思う。
口を出す必要はあるかもしれないが、責任は持てないという位置づけになるのではないか。
- 上甫木委員長 区域施策編としては、町域全域になる。
- 畑中委員 計画としては、そうである。施策や再エネの指標、進捗管理については町が取り組むべきことを明示すべきかと思う。
- 上甫木委員長 家庭では、省エネと再エネの割合がないと分かりづらいということも課題かと思う。その点については算出をお願いしたい。
- 事務局 中小事業者向け、町民向けに分かるように、計画のP42等を元に、見直しをして、進めたいと思う。
- 上甫木委員長 地域ごとに色々なスタイルがあるということで、精華町は、立地している状況なので、地域特性として示してもよいかもしれない。
- 岩本委員 私は、中小企業25社の代表と来ている。理事会でどのように発言すれば、削減目標や導入目標が進むのか教えていただきたい。
投資をともなうものともなわないものがある。投資がともなわないもので好事例を挙げていただきたい。
資源循環や、ルールづくりなどであれば、投資はともなわないかもしれない。分かりやすく教えていただきたい。
- 上甫木委員長 市民向けの概要版は分かりやすい取り組みを例示しますということだったが、そこで、市民向け、企業向けと分けて作られたらよいのではないか。
- 岩本委員 P42に一覧はあるが、もう少し分かりやすく、かつ投資のともなわな

- いものを事例として提示していただきたい。
- 事務局 コラムは町民向けが多いので、事業者様向けも意識した作成をしたいと思う。
- 上甫木委員長 何をしたらよいか町民としては知りたいところである。
- 信田委員 1%でも具体的なという話になると、ごみの中でも生ごみをどうするのかということが大きな対策となる。
- 生ごみは99%水分である。それを、燃やしているわけである。それを世の中には、メタンガスで発酵して燃料や堆肥にしているところがある。分けてしまえば、相当、省エネ・省資源に繋がる。
- 具体的に記載するのであれば、町として投資を必要とすると思うが、そのような対策も含んで考えておく必要があるのではないかと。
- 上甫木委員長 施策の柱4のところに入れていたかと思う。
- 事務局 住民の役割として3Rの実行ということで、ごみの減量や再資源化については記載している。
- 信田委員 そういう話ではなく、生ごみだけを別に収集するという施策が必要になると思うが、いかがか。
- 一般廃棄物が排出量内訳の3%となっている。それがかなり減るのではないかと。
- 事務局 脱炭素に向けての計画づくりの一部に廃棄物が入るということで記載させていただいている。一般廃棄物処理計画の方で具体的な目標や施策の方向性を出している。本計画においては、排出量削減につながるごみの減量について頭出しをさせていただいている。
- 引き続き、生ごみの減量や堆肥化などの施策の推進については検討していきたい。
- 上甫木委員長 引き続きご検討いただくということをお願いしたい。
- 井澤委員 いつも発信はしていただいている。発信いただいているだけでは、現実になっていかないのが地域である。かなり細かな団体での中での話し合いが必要ではないか。そういう動きがないと、現実的な削減になっていかない。
- 家庭では必要といわれても、頭の中では分かるが、行動にはつながってっていない。理事会なり、女性の会の支部で話し込んでいくことが重要ではないか。1人1人の意識に根付かないことには、ごみの削減にはなっていないと思う。
- P42の家庭のところを見ていると、核家族化が進んで、高齢化が高いと、家は10年したら空き家になることが見えている。そういう人達に省エネの機械導入など無理かと思う。今のままでいいという考えにな

ってしまう。

それで何%で排出量削減としても、地域では無理だと思う。実情をこの委員会で挙げなければならないのか分からないが、考慮された数字なのか疑問に思う。

上甫木委員長

大切な意見かと思う。計画を発信しても、行動を促す取組を行政ががんばってやっていかないといけない。

市民向け、企業向けに分かりやすい説明資料を作って提供するとか、全体像と具体的な話を町民の場に行って、説明するなどきめ細やかな対応が必要かと思う。

事務局

計画が出来ても、住民は何を取り組んだらわかりづらいということがある。廃棄物の処理計画を作ったときに、家庭ではこういうことをやってくださいということをパンフレットでお示した。

本計画でも分かりやすい、実践してもらえるPRの仕方を行政として工夫していく必要がある。

上甫木委員長

色んな分野にまたがっているのも、他で出来ているところに出て行くという考え方も大事かと思う。

事務局

よく介護予防とかで、サポーターを養成したりしている。検診率が伸びない時に、検診率の大切さをレクチャーしたりしている。

環境もそのような場で少しでもお伝えして、行動おこしてもらえるようにしていくことが大事だと思う。

上甫木委員長

環境月間の6月を目指してがんばっていただきたい。

寺本副委員長

第5章だけをまとめたもので、町民向け、事業者向けに4,5ページで作成していただきたい。

事務局

住民向け、事業者向けに作成していきたいと思う。

町として強調したい紙面の工夫をしていきたい。章の概略を抜粋するだけではだめだと感じている。

上甫木委員長

概要版はこれからだと思うので、がんばっていただきたい。

畑中委員

計画の推進について、全庁的な「精華町脱炭素推進ネットワーク」を設定とあるが本当に設定されるのか。

また、ロードマップ、中間目標と記載されているが、この計画とは違うどのようなことをイメージしているのか。

事務局

プラットフォームがあるのでそれを発展させることができればと考えている。

畑中委員

プラットフォームの延長線上にあるなら、設置を目指して、将来的には、と記載があるが順序が逆ではないか。

事務局

区切りに向けた目標が設定されたので、そこに向けたステップとし

て整理して、進捗管理をするイメージを持っていたところである。

畑中委員 本来、計画にロードマップは組み込まれているものだが、やらなくてよいのか。

上甫木委員長 具体的に取り組むところと一緒に考えていくということか。ただ、かなり、大変なことかと思うが、いかがか。

畑中委員 普通、計画策定時にロードマップを描いて、ネットワークで議論することはよくある例である。その後の組織で練るというのは大変である。

上甫木委員長 年度事業なので、この3月で整理する必要があるということかと思う。反映できるところは反映いただきたい。

また、進行管理の中で、中間見直しをするなども必要かもしれない。

畑中委員 今回、国のメニューはどのようなメニューだったか。

事務局 適応策をのぞく、国の区域施策編を策定するという名目でいただいている。

上甫木委員長 まだまだ議論するところはありそうだが、いただいたご意見は反映する形で、整理をいただきたい。

事務局 修正させていただき、委員長とご相談して、最終案とさせていただきたい。

完成した計画については、委員にもご報告させていただきたい。

3. そのほか

岩本委員 データセンターの騒音問題について情報提供。

事務局 事業者向け、町民向けの精華環境プラットホームについて報告。

次年度環境推進委員会は7月、10月、3月を予定。

4. 閉会